

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
専門学校岡山情報ビジネス学院		昭和61年7月26日		三村 光		〒 700-0024 (住所) 岡山県岡山市北区駅元町1番4号 ターミナルスクエア内 (電話) 086-224-2336			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人 三友学園		昭和61年7月26日		池田 基熙		〒 700-0024 (住所) 岡山県岡山市北区駅元町1番4号 ターミナルスクエア内 (電話) 086-224-2336			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
工業	工業専門課程		国際ITビジネス学科 (国際ITシステム学科)		令和 2(2020)年度	-	令和 5(2023)年度		
学科の目的	日本国内はもとより母国や海外で活躍できるシステムエンジニアやプログラマー、システムオペレーター等の実践的な技術や知識を持ったITエンジニアの育成を目指す。併せて、日本企業で就職する際に必要とされる日本語能力や日本におけるビジネスコミュニケーションスキル等を身につけた人材を育成する。								
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格 等)	【取得可能な資格】 日本語能力試験N1／N2／N3 文章読解・作成能力検定3級・4級 情報処理技術者能力認定試験3級 Java™プログラミング能力認定試験 C言語プログラミング能力認定試験 2次元CAD利用技術者試験基礎 社会人常識マナー検定JapanBasic Excel®表計算処理技術認定試験3級 Word文書処理技能認定試験 他								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,508 単位時間	906 単位時間	1,482 単位時間	105 単位時間	単位時間	単位時間	
		単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率				
80 人	61 人	61 人		1 %	3 %				
就職等の状況	■卒業者数(C)		6 人						
	■就職希望者数(D)		5 人						
	■就職者数(E)		5 人						
	■地元就職者数(F)		3 人						
	■就職率(E/D)		100 %						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		60 %						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		83 %						
	■進学者数		1 人						
	■その他								
	(令和 6 年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等									
(令和6年度卒業生)									
株式会社アスパーク、株式会社ハル技術研究所、大松精機株式会社、株式会社アンリックス									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載							有	
	評価団体: 一般社団法人専門職高等教育質保証機構		受審年月: 平成31年2月		評価結果を掲載したホームページURL		https://www.oic-ok.ac.jp/assets/document/about/2019.pdf		
当該学科のホームページURL	https://oic-ok.ac.jp/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数		2,508 単位時間						
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		105 単位時間						
	うち企業等と連携した演習の授業時数		100 単位時間						
	うち必修授業時数		2,508 単位時間						
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		105 単位時間						
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		100 単位時間						
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		105 単位時間						
	(B: 単位数による算定)								
	総単位数		単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		単位							
うち企業等と連携した演習の単位数		単位							
うち必修単位数		単位							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		単位							
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		単位							
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位							
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		2 人						
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		2 人						
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人						
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		1 人						
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		1 人						
	計		6 人						
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		1 人						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

IT技術者として、日本国内および母国や海外で活躍できる実践的な技術や知識を持ち、日本企業で必要とされるビジネス日本語力やコミュニケーション能力を備えた人財の育成を目指す。そのために、日本での留学生採用動向やシステム開発技術、また就労ビザ取得についての知見のある方々に教育課程編成委員を依頼し、日本企業での採用実状やシステム開発と求められるスキル等について意見や提案をいただき、カリキュラム・授業計画等に反映させる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

留学生が日本で就労ビザを取得し、就職できるようにIT技術者育成のために、システム業界関係者、就労ビザ取得および岡山情報ビジネス学院関係者で構成された「教育課程編成委員会」を岡山情報ビジネス学院内に設置する。年間2回以上開催される委員会にて教育課程の編成に向けた意見・助言等を受けカリキュラム等の開設・改善・工夫等を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
岡崎 博之	岡山ユネスコ協会 監事	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	①
芳原 慶真	コーセーエンジニアリング株式会社 総務部 部長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
辻井 恭子	セリオ株式会社 人財部 セクションマネージャー	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③
安田 真純	平林金属株式会社 営業本部営業課 主幹	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③
菅原 洋介	専門学校岡山情報ビジネス学院 グローバル系学科群 課長補佐	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	—
難波 芳子	専門学校岡山情報ビジネス学院 国際ITビジネス学科 学科長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年 8月28日(水) 16:00～18:00

第2回 令和7年 1月29日(水) 16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・昨年度から、日本への留学生の増加に伴い、IT業界だけでなくビジネス業界への就職希望者も増えていることを踏まえて、今後のカリキュラム変更や学科名変更を考えてはどうかと提案いただき、2025年からITとビジネスどちらかで就職できるようなカリキュラムに変更した。

→IT系とビジネス系のカリキュラムについてアドバイスをいただき、2025年の入学者より対応できるよう変更した。

留学生の語彙力の定着を図るために小学生が使用するようなマス目の大きいノートを使用してはどうか。

→2025年の入学者より、単語が記載できるメモ帳、各科目で使用できるルーズリーフを全員に配布するようにした。

(別途、以下の資料を提出)

- * 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程
- * 教育課程編成委員会等の規則
- * 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-1
- * 学校又は法人の組織図
- * 教育課程編成委員会等の開催記録

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

留学生が、日本のIT業界(システム開発系、Webエンジニア系、制御システム系、CADエンジニア系)で働くことを目的とし、技術者育成のため、上記4分野を中心とした企業と連携し、現場における業務を体験し、今後のシステム開発技術者としてのスキル向上を目指す。また、連携企業様についてはキャリア実習Ⅰでは、日本で働く体験をキャリア実習Ⅱでは上記4分野の中で1分野についての仕事が体験でき、その業界で活躍している方から業界に関する直接助言や協力が得られる体制をとることが可能な企業様を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

留学生が、日本のIT業界(システム開発系、Webエンジニア系、制御システム系、CADエンジニア系)で働くことを目的とし、技術者育成のため、上記4分野を中心とした企業と連携し、現場における業務を体験し、今後のシステム開発技術者としてのスキル向上を目指す。また、連携企業様についてはキャリア実習Ⅰでは、日本で働く体験をキャリア実習Ⅱでは上記4分野の中で1分野についての仕事が体験でき、その業界で活躍している方から業界に関する直接助言や協力が得られる体制をとることが可能な企業様を選定している。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
キャリア実習Ⅰ	3.【校外】企業内実習 (4に該当するものを除く。)	実際の日本企業で実習することにより理論と実践の相互関係を理解し、基礎的な知識・技術力を身につける。	コーセーエンジニアリング株式会社、トリツ機工株式会社、平林金属株式会社、三工電機株式会社、山陽レジン工業株式会社等 全11社
キャリア実習Ⅱ	3.【校外】企業内実習 (4に該当するものを除く。)	専門分野である日本のIT企業で社会人経験をOJTとして積み、求められるスキルに対し、主体的に学習を通して、与えられた結果にコミットできる。	株式会社トスコ、セリオ株式会社、トリツ機工株式会社、平林金属株式会社 全4社

(別途、以下の資料を提出)

* 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書(本人の同意書及び企業等の承諾書)等

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員の資質向上や専門分野の知識向上を目的とし、学内研修・学外研修・自己啓発研修等の年間研修計画を立て、学科教員が受講する。また、研修受講後は、研修報告書の作成と関係者に対して研修内容の共有を行う。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	専門学校教員におけるグローバル研修	連携企業等:	一般社団法人 全国専門学校教育研究会
期間:	令和6年8月21日、22日	対象:	国際ITシステム学科教員
内容	一般社団法人 全国専門学校教育研究会は、全国の専門学校が教育の成功事例や取り組みなどを共有し、より専門性の高い教育を目的とした一般社団法人で、研修会を通して情報交換や教員のレベルアップを図っている。本校もこの研究会に加盟しており、他校との情報交換や教師のレベルアップを図っている。留学生の就職、日本語力の定着等、留学生の課題となっている問題について他校との情報共有や解決に向けての方法を体系的に学ぶ研修である。		
研修名:	留学生就労の在留資格変更における注意点等について	連携企業等:	岡山ユネスコ協会
期間:	令和6年9月26日(木)10:00～12:00	対象:	国際ITシステム学科教員
内容	岡山ユネスコ協会は、1994年の設立以来、世界平和運動、教育の国際協力である世界寺子屋運動、世界遺産の保護活動等に積極的に協力しており、国際理解教育への貢献を行っている団体であり、本学科の国際教育やVISA更新、生活支援サポート、企業・行政等の共同事業の企画・運営で本学科と連携している。今回の研修では、内定をもらった学生への就労ビザについてや日本での外国人雇用における就職支援の問題点等について知識を深める研修である。		

研修名:	～留学生指導に活かす生成AI活用法～ —NotebookLMではじめる就職指導とは—	連携企業等:	一般社団法人 大阪府専修 学校各種学校連合会
期間:	令和6年12月9日 15:00～17:00	対象:	国際ITシステム学科教員
内容	インバウンドが進む中、日本への留学生が増加する中で、業務の効率化を図るためにも専門学校における生成AIの活用が必要となってくる。その具体的な活用方法を理解し、NotebookLMを使用した実践的なAIアシスタントの作成方法を習得し、留学生支援での効果的な活用方針を把握する。		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	「志セミナー」株式会社ミアーズ 代表取締役 前村美樹さん講演	連携企業等:	株式会社ミアーズ
期間:	令和6年6月13日 9:30-10:30	対象:	教務課職員
内容	業界をリードする経営者を講師に迎え、自身の経験を踏まえながら、「変化する時代に生き抜く力を身に付ける方法」「自身の力でキャリアをデザインする生き方」について講演いただく。自分自身の人生や社会課題の解決について考える機会とし、一人ひとりのやる気と行動の原点につなげていく。		
研修名:	生成AIで社会はどう変わるか:教育、仕事、未来について考える	連携企業等:	一般社団法人ビッグデータ マーケティング教育推進協 会
期間:	令和6年11月19日(火)15:00～17:00	対象:	教務課職員
内容	Chat GPTを始めとする生成AIが急速に発展する中で、私たちの働き方や学び方も大きく変化しています。「生成AIで社会はどう変わるか:教育、仕事、未来について考える」と題して、最新の生成AIアプリケーションを実際に操作しながら、AIが私たちの環境をどのように変革しているかを体験的に学んだ研修だった。		
研修名:	学生指導力を向上させるマネジメント研修	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	令和7年3月11日～12日	対象:	学科責任者
内容	学校における強みを理解し、教職員が柱である授業運営やガイダンスに注力できる環境を構築し、学生指導力の向上を図る。		
(3)研修等の計画			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名:	岡山市多文化共生推進ネットワーク会議	連携企業等:	岡山市国際交流協議会
期間:	令和7年7月8日(火)10:00～12:00	対象:	国際ITシステム学科教員
内容	岡山市における外国人及び留学生に関する取り組みと問題点についての研修		
研修名:	専門学校教員におけるグローバル研修	連携企業等:	一般社団法人 全国専門学 校教育研究会
期間:	令和7年8月21日、22日	対象:	国際ITシステム学科教員
内容	一般社団法人 全国専門学校教育研究会は、全国の専門学校が教育の成功事例や取り組みなどを共有し、より専門性の高い教育を目的とした一般社団法人で、研修会を通して情報交換や教員のレベルアップを図っている。本校もこの研究会に加盟しており、他校との情報交換や教師のレベルアップを図っている。留学生の就職、日本語力の定着等、留学生の課題となっている問題について他校との情報共有や解決に向けての方法を体系的に学ぶ研修である。		
研修名:	未定	連携企業等:	一般社団法人 大阪府専 修学校各種学校連合会
期間:	令和7年12月中旬ごろ	対象:	国際ITシステム学科教員
内容	未定		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	組織を強くする人材育成	連携企業等:	株式会社東京カモガシラランド
期間:	令和7年5月7日	対象:	学科責任者
内容	人材育成の重要性を再確認し、日頃のマネジメントに活用することにより、教職員全体の成長につなげていくとともに、学生指導にも効果的に活用する。		
研修名:	AI活用術	連携企業等:	ユースフル株式会社
期間:	令和7年10月予定	対象:	教員
内容	ChatGPT等のAI技術を活用することによる授業準備効率の向上手法を学ぶ。		

研修名:	救命救急講習	連携企業等:	岡山市消防局
期間:	令和7年8月予定	対象:	全教職員
内容	心肺蘇生法、AEDの使用法、止血法など、基本的な応急処置を学ぶ		
(別途、以下の資料を提出)			
* 研修等に係る諸規程			
* 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績)			
* 研修等の計画(推薦年度における計画)			
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係			
(1)学校関係者評価の基本方針			
自己評価の評価結果について、学校関係者として卒業生、保護者とともに企業等による評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高める。また、本校の教育方針である「即戦力となる人材育成」「ビジネスマンにふさわしい人格形成」「ニーズに対応したカリキュラム」に基づき、地域社会に貢献できる人材の育成に結び付けるために、関係者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ることを目的とする。			
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応			
ガイドラインの評価項目		学校が設定する評価項目	
(1)教育理念・目標	教育理念・目標		
(2)学校運営	学校運営		
(3)教育活動	教育活動		
(4)学修成果	学修成果		
(5)学生支援	学生支援		
(6)教育環境	教育環境		
(7)学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集		
(8)財務	財務		
(9)法令等の遵守	法令等の順守		
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献		
(11)国際交流	なし		
※(10)及び(11)については任意記載。			
(3)学校関係者評価結果の活用状況			
入試を実施しても、ほぼ全員が入学する状況であると考えられる。こうした状況を踏まえ、今後どのような取り組みが必要であるかについてご意見をいただいた。			
その中で、本校の強みの一つである「面倒見の良さ」は引き続き維持しつつ、アドミッションポリシーに掲げる「これまでより、これから」を意識し、入学後に学生自身の意思によって成長できるような支援を行っている。			
具体的には、教職員が一丸となって、授業や個別面談、課外活動、キャリア支援など、あらゆる場面で学生に寄り添い、声をかけ、適切な支援や挑戦の機会を提供するなど、積極的かつ継続的に関わっている。			
あわせて、アクティブラーニングやプロジェクト型学習など指導方法の工夫を重ね、学生の主体的な学びを促すとともに、地域や企業、卒業生との連携を通じて、実社会とつながる学びの場を構築している。今後もこうした多面的な取り組みにより、学生一人ひとりの成長を着実に支えていく。			

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
畑 嘉昭	株式会社トスコ 代表取締役社長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員 (IT)
平野 彰一	社会福祉法人岡北福祉会 岡北学園 理事長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員 (保育)
守井 照久	税理士法人 創明コンサルティング・ブレイン 代表社員	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員 (会計)
真鍋 洋志	菅公学生服株式会社 取締役	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員 (ビジネス)
山本 渉	医療法人 和香会 倉敷スイートホスピタル 事務局長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員 (医療)
豊田 東	バイオシステム株式会社 岡山国際ホテル 総支配人	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員 (ホテル)
高橋 京恵	株式会社FIL DESIGN 代表取締役	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員 (デザイン)
北牧 涼輔	NAYUG合同会社 代表社員	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員 (ゲーム)
米谷 紀彦	自衛隊香川地方協力本部 東讃地区隊長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員 (公務員)
芳原 慶真	コーセーエンジニアリング株式会社 総務部 部長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員 (留学生)
早崎 律貴	スマートスケープ株式会社 DE事業部 製造ソリューション部 部長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	卒業生
藤田 直樹		令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://oic-ok.ac.jp/about/info/>

公表時期: 毎年10月1日に更新

(別途、以下の資料を提出)

- * 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2
- * 自己評価結果公開資料
- * 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針やキャリア教育、職業教育をはじめとした教育活動等の状況を提供する。また、それぞれの学科の目標検定や就職実績についても情報を提供し、公的な認可を受けた教育機関として誠実な対応を行い、説明責任を果たす。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	OICの教育方針、心の推進プロジェクト、プライバシーポリシー(個人情報保護法)
(2) 各学科等の教育	目指す業界・職種、目指す資格と資格取得実績、就職実績、カリキュラム
(3) 教職員	教職員数、教員の組織、教員の専門性、教職員の研修
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取り組み支援、企業等との連携による取組・キャリア教育への取組
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育活動・校舎、施設紹介、学校行事、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援への取組状況(スクールカウンセラー)
(7) 学生納付金・修学支援	学納金、独自の奨学金制度・学費支援制度
(8) 学校の財務	財務状況
(9) 学校評価	学校評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://oic-ok.ac.jp/about/info/>

公表時期: 毎年6月に更新

(別途、以下の資料を提出)

* 情報提供している資料

(備考)

・用紙の大きさは、日本産業規格A4とする(別紙様式1-2、2-1、2-2、3-1、3-2、4、5、6、7、8についても同じ。)

授業科目等の概要

(工業専門課程 国際 I T ビジネス学科 (国際 I T システム学科))																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			ビジネス実務 I	新入社員として必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力を習得する。	1 前期	33	2	○	△		○		○		
2	○			言語基礎 I A (語彙・文法)	日本社会で働く上で必要な日本語の語彙・漢字の学習と文法を学習し、それぞれが目指す JLPT のレベルの語彙・表現、文法を身につけることができる。	1 前期	66	4	○	△		○			○	
3	○			言語基礎 I B (読解)	読解分野について、各自のレベルアップを図るために読解の新しい文型を理解する。	1 前期	60	4	○	△		○		○		
4	○			CAD演習 I (3D)	TinkerCAD を使って、3DCAD の基本知識と技術を身につけ、図面を作成することができる。	1 前期	30	2	△	○		○			○	
5	○			パソコン基礎 演習 I (Word/Excel)	Word/Excel の基本的なしくみと機能を理解し、ビジネスで必要となる基本的なスキルを習得する。	1 前期	32	2		○		○		○		
6	○			通訳 I	文法や作文力を学び、日本語の長文が書けるようになる。日本人学科の学生との合同授業を通して、あるテーマについてグループワークで意見交換を行い、発表をする。	1 前期	32	2	○	△		○		○		
7	○			ペン字	履歴書やビジネス文書等で書く文字バランスを身につける	1 前期	15	1	△	○		○			○	
8	○			Webサイト制作演習 I	HTML5、CSS3 による Web ページ作成方法の基礎を理解する。	1 前期	16	1	△	○		○			○	
9	○			日本語能力試験 I	日本語能力試験の語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題が理解できるようにする。	1 前期	54	3	△	○		○		○		
10	○			労務管理	グローバル社会が進む中で、留学生が採用された企業において、安心、安全に働くことができ、企業内での活動が円滑にできるようにする。そのために労働基準法を中心とする関連法令を習得する。	1 通年	32	2	○	△		○		○		
11	○			ビジネス実務 II	新入社員として必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力を習得する。	1 後期	30	2	○	△		○		○		

(工業専門課程 国際 IT ビジネス学科 (国際 IT システム学科))																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
12	○			コンピュータシステムⅠ	コンピュータに関わる様々な基本原理や基礎技術について学習する。サーティファイ情報処理技術者能力認定試験 3 級の合格に必要なスキルを身につける。	1 後期	62	4	○	△		○		○		
13	○			通訳Ⅱ	通訳Ⅰで学んだ、基本的な文章表現のルールの幅を広げ、豊かに表現し、文章の構造を意識しながら話す力とより高度な通訳スキルを身につける。日本人学科との合同授業の中で、意見交換を行い、発表をする。	1 後期	32	2	○	△		○		○		
14	○			言語基礎ⅡA (語彙・文法)	Ⅰに引き続き、日本社会で働く上で必要な日本語の語彙・漢字の学習と文法を学習し、それぞれが目指すJLPTのレベルの語彙・表現、文法を身につけることができる。	1 後期	45	3	○	△		○			○	
15	○			言語基礎ⅡB (読解)	Ⅰに引き続き、読解分野について、各自のレベルアップを図るために短文、中文、長文の読解を身につける学習をする。	1 後期	45	3	○	△		○		○		
16	○			システム制御演習Ⅰ	三菱メルウェアラダーソフトよりラダー言語のプログラミング技術を学び、理解できる。	1 後期	15	1	△	○		○			○	
17	○			アルゴリズム概論	コンピュータの導入とプログラムの基礎となるアルゴリズムとデータ構造が理解できる。	1 後期	45	3	○	△		○		○		
18	○			Webサイト制作演習Ⅱ	Ⅰで学んだ基礎力を生かし、HPを完成させるために、必要な基本的専門知識や、情報伝達手段について理解し、主体的に学びを深められ、Webサイトが自分で作成できるようになる。	1 後期	30	2	△	○		○		○		
19	○			ビジネス実務Ⅲ	日本で社会人になることを目的とし、そのために必要なビジネスマナーと、就職試験のSPIに向けた基礎学力の定着を計る。 テキストで日本のビジネスマナーを学習し、すららネット日本の中学レベル日本語、数学の習得を目指す。	2 前期	62	4	○	△		○		○		
20	○			言語知識ⅠA	日本語能力試験N2レベル相当の漢字・語彙を習得することを目的とする。 日本人と同等に就職するため、日本人高校卒業程度の漢字を身に付ける	2 前期	30	2	○	△		○		○		

(工業専門課程 国際 IT ビジネス学科 (国際 IT システム学科))															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
21	○			言語知識 I B	日本語能力試験 JLPTN2 取得に向けさまざまな話題の長文を読み、文章表現などを理解しながら読解を行う。同時に、感想・意見をまとめ、話す・書くアウトプットを通した、日本語力の定着を目的とする。またトピックの背景となる素養・語彙も増やし、コミュニケーションができるようになることを期待する。	2 前期	30	2	△	○		○		○	
22	○			ビジネス文書演習 I	日本で就職する上で必要な文章力、表現力、会話力身につける。敬語の意味や使い方を学びながら実際の日本のビジネス社会に必要な文章や会話で表現できるようにする。明確なポートフォリオとして学内新聞の発行。また、日本人学科の学生との交流授業で、日本語を理解し、自分の意見や考えを日本語で伝え、グループで発表できるようにする。	2 前期	45	3		○		○		○	
23	○			CAD 演習 II (2D)	JIS 機械製図の手法を説明しながら、簡単な機械要素の製図を通じて、物体表現の方法と 2 次元 CAD の特徴および基本的な操作法を実習によって習得することを目的とする。	2 前期	30	2	△	○		○			○
24	○			コンピュータシステム II	コンピュータシステム I で基本原理や基礎技術について学習した内容を、問題演習を繰り返すことにより理解を深め情報処理検定 3 級の取得を目的とする。	2 前期	45	3	△	○		○		○	
25	○			C 言語プログラミング演習 II	I で学んだデータ型、標準入出力、制御構造、配列・文字列を利用した文法、記述法を問題演習を繰り返すことにより理解を深め C 言語検定 3 級の取得を目的とする。	2 前期	30	2	△	○		○			○
26	○			プレゼンテーション技法	Powerpoint やプレゼンテーションを基礎として、キャリア実習 I で経験してきた内容を、外部向けに powerpoint を用いてスライドを作成し、発表を行う。	2 前期	30	2	△	○		○		○	
27	○			ビジネス表計算技法	Excel の基本的な操作 (データ入力、罫線・グラフの作成、関数の利用、セルの参照、判定条件、検索関数) について学び、Excel 検定 3 級合格レベルまで引き上げることを目的とする。	2 前期	45	3	△	○		○		○	

(工業専門課程 国際 I T ビジネス学科 (国際 I T システム学科))																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
28	○			情報セキュリティ概論	インターネット上の「悪意ある攻撃」などから大切なデータや個人情報を守るための情報セキュリティとデータベース、ネットワークに対する問題解決を理解することを目的とする。	2前期	15	1	○	△		○		○		
29	○			経営マネジメント概論	企業活動、法務、経営戦略マネジメントの各分野について広く俯瞰的に学ぶ。留学生が日本の企業に就職し、活躍するために有益な経営・法務・ビジネス知識を身につけることを目的とする。	2前期	30	2	○	△		○		○		
30	○			インターンシップ実習Ⅰ	学校で学んだ専門知識を活かして、日本の企業でインターンシップ実習を経験することを目的とする。	2前期	35	1			○		○	○		○
31	○			実習事前・事後指導Ⅰ	インターンシップ実習Ⅰにおいて、まずは日本企業で働くということはどういうことかを理解し、学内で事前学習を受け、実習の心構えや目標を学んだのちに、職場での就業体験を行う。事後指導での振り返りや成果発表によって、自己の職業適性や将来設計について考える機会とし、主体的な職業選択や高い職業意識の形成に繋げる。	2前期	25	1		○		○		○		
32	○			日本語能力試験Ⅲ	日本語能力試験合格を目的とする。 語彙・文法・聴読解・会話作文の各授業で学んだ内容を、JLPT試験の問題答練として演習し、確実に合格できるようにしていく。 日本語能力試験JLPTの試験を同様の形式で行うことにより、自身の課題発見につなげる。	2前期	45	3	△	○		○		○		
33	○			ビジネス実務Ⅳ	日本で社会人になることを目的とし、そのために必要なビジネスマナーと、就職試験のSPIに向けた基礎学力の定着を計る。テキストで日本のビジネスマナーを学習し、すららネット日本の中学レベル日本語、数学の習得を目指す。	2後期	75	4	○	△		○		○		
34	○			言語知識ⅡA	日本語能力試験N2レベル相当の漢字・語彙を習得することを目的とする。 日本人と同等に就職するため、日本人高校卒業程度の漢字を身に付ける	2後期	45	3	○	△		○		○		
35	○			言語知識ⅡB	日本語能力試験JLPTN2取得に向けさまざまな話題の長文を読み、文章表現などを理解しながら読解を行う。同時に、感想・意見をまとめ、話す・書くアウトプットを通した、日本語力の定着を目的とする。またトピックの背景となる素養・語彙も増やし、コミュニケーションができるようになることを期待する。	2後期	50	3	○	△		○		○		

(工業専門課程 国際 I T ビジネス学科 (国際 I T システム学科))																
分類				授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択	講義						演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
36	○			ビジネス文書演習Ⅱ	日本で就職する上で必要な文章力、表現力、会話力身につける。敬語の意味や使い方を学びながら実際の日本のビジネス社会に必要な文章や会話で表現できるようにする。文書検定(4級・3級)の合格を目標とする。また、日本人学科の学生との交流授業で、日本語を理解し、自分の意見や考えを日本語で伝え、グループで発表できるようにする。	2後期	45	3	△	○		○		○		
37	○			Javaプログラミング演習Ⅰ	基礎的な文法、考え方を身につけJavaプログラミング能力認定試験3級を取得することを目的とする。	2後期	30	2	△	○		○			○	
38	○			ビジネス英語Ⅱ	グローバル社会が進む中で、企業において外国人の採用が積極的に行われている。日本で日本人と一緒に勤務する上では日本語コミュニケーション力が必要であるが、海外展開をしていく上では、共通語である英語コミュニケーション力の向上を目指すことを目的とする。	2後期	30	2	△	○		○		○		
39	○			Webサイト制作演習Ⅲ (HTML, CSS)	Webアプリケーションのフロントエンド部分の開発を行うために必要不可欠なHTMLとCSSの技術について学習し、複数ページに渡るWebサイトを個人の力で作れることを目的とする。	2後期	45	3	△	○		○		○		
40	○			システム制御演習Ⅱ	企業においては、製造部門ではシーケンス制御装置が多用されており、設計・開発部門では、CADやCAEなど支援ツールを活用して製品開発を行う場面が多くなってきている。本講義では、機械制御の実際と実機を利用して工場の制御システム及びPLC言語の基礎を学習する。	2後期	15	1	△	○		○			○	
41	○			インターンシップ実習Ⅱ	学校で学んだ専門知識を活かして、専門分野でのインターンシップ実習を経験することを目的とする。	2後期	70	2			○		○	○		○
42	○			実習事前・事後指導Ⅱ	インターンシップ実習Ⅱにおいて専門的な分野での実習の目的や学びを理解し、学内で事前学習を受け、実習の心構えや目標を学んだのちに、職場での就業体験を行う。事後指導での振り返りや成果発表によって、自己の職業適性や将来設計について考える機会とし、主体的な職業選択や高い職業意識の形成に繋げる。	2後期	20	1		○		○		○		

(工業専門課程 国際 I T ビジネス学科 (国際 I T システム学科))																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
43	○			日本語能力試験Ⅳ	日本語能力試験合格を目的とする。 語彙・文法・聴読解・会話作文の各授業で学んだ内容を、JLPT試験の問題答練として演習し、確実に合格できるようにしていく。 日本語能力試験JLPTの試験を同様の形式で行うことにより、自身の課題発見につなげる。	2後期	50	3	△	○		○		○		
44		○		ペン字上級	日常生活に役立つ行書（美しいつづけ字）を学ぶ。 行書のルールを覚え、一筆箋、封筒、年賀状、のし袋（筆ペン）を書いてみる。	2後期	15	1		○		○			○	
45		○		ビジネス英語	グローバル社会が進む中、企業内の標準言語が英語になるなど、ビジネスにおいて英語を使う機会が増えている。ビジネスの場で、簡単な英語が話せる力や、メール文章を書く能力を身に付けることを目的としている。	2後期	15	1		○		○			○	
46		○		エクセル上級	Excelのスキルををあらゆるビジネスシーンで活用できるように、基礎知識から応用まで幅広く学び、PCスキルを社会で活かせる人材育成を目的とする。	2後期	15	1		○		○		○		
47		○		医療事務	医療機関の役割、医療保険制度の仕組みを知り、簡単な医療費の計算方法を習得する。	2後期	15	1		○		○		○		
48		○		RPA実習	作業自動化ツールであるRPA (Robot Process Automation) の構築を題材に、プログラムの思考力を養う。	2後期	15	1		○		○		○		
49		○		情報リテラシー	業務で役立つWindowsの便利な機能や、社会に出てから必要となるセキュリティ知識やAIの活用方法などについて学ぶ。	2後期	15	1		○		○		○		
50		○		データマーケティング	データを根拠に考え、新しいアイデアを考案するための方策を学ぶ。Excelを活用した分析手法についても修得する。	2後期	15	1		○		○		○		
51		○		ファイナンスプランナー	身近なお金の知識やこれから必要になるお金の知識を学ぶ。投資など資産運用について基本的な知識を身につける。	2後期	15	1		○		○		○		
52		○		一般知能	数的推理・判断推理を論理的な思考から、解答する力を答練を通じて身につける。	2後期	15	1		○		○		○		

(工業専門課程 国際 I T ビジネス学科 (国際 I T システム学科))																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
53		○		フラワーアレンジメント	フラワーデザインの基本的な知識を習得し、形や構成からテーマを表現する。	2後期	15	1		○		○			○	
54		○		ゲームプログラミング	ゲームプログラミングを通じて論理的思考法を身に付ける	2後期	15	1		○		○		○		
55		○		広告映像	会社の広報SNSなどに必要な写真の撮影、および動画制作を通して、情報や魅力をわかりやすく伝える力を身につける。	2後期	15	1		○		○		○		
56		○		ビジュアルデザイン	デザインアプリFigmaを使用。商業デザインの制作を通して、レイアウト、表現技法を学ぶ。	2後期	15	1		○		○		○		
57		○		世界情勢	自国の習慣や考えだけにとらわれることなく、他国の習慣・文化に共感し、異文化間での協力関係を構築する素地を身に付ける	2後期	15	1		○		○		○		
58	○			ビジネス実務Ⅴ	就職目前となり、実際に自分が仕事をする意識を持ち、社内での具体的な場面の例題から対応やマナーを学ぶ。	3前期	72	4	○	△		○		○		
59	○			実践ビジネスコミュニケーションⅠ	日本のビジネスに必要な基本的なこと（敬語やビジネスマナー）を身につける。また、敬語の意味や使い方を学習しながら、日本社会のあらゆるビジネスシーンで対応できる実際の会話力を養う。また、中級・中上級の読解力を身につける。	3前期	30	2	△	○		○		○		
60	○			IT企業リテラシーⅠ	日本の社会で働く上で必要な社会のマナーを理解し、あらゆるビジネスシーンに対応できる力を身につける。 日本で就職するうえで必要な知識や技術（敬語、ビジネス文書、SPI、グループディスカッション）を深める。	3前期	70	4	△	○		○		○		
61	○			ビジネス表計算技法Ⅱ	Excelの基本的な操作（データ入力、罫線・グラフの作成、関数の利用、セルの参照、判定条件、検索関数）について学び、Excel検定3級合格レベルまで引き上げることを目的とする。	3前期	45	3	△	○		○		○		
62	○			Javaプログラミング演習Ⅱ	Iで学んだJavaによる基本的な処理とデータ構造、オブジェクト指向の基本概念を問題演習を繰り返すことにより理解を深めJava検定2級取得を目的とする。	3前期	45	3	△	○		○			○	

(工業専門課程 国際 I T ビジネス学科 (国際 I T システム学科))																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・ 実習・ 実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
63	○			データベース 演習	SQLの基本的な文法及び、正規化の考え方を 学習し、SQLが発行できるようになること と、情報処理試験のSQL問題が解けることを 目的とする。	3 前期	50	3	△	○		○		○		
64	○			JavaScript演 習	しWebサイトに自動的なパーツや要素を作成 しインタラクティブなサイトを制作できる ことを目的とする。	3 前期	45	3	△	○		○			○	
65	○			IT実践演習	2次元CAD利用技術者基礎試験の合格に向 けて、6つの章から成り立つ範囲の理解、CAD だけではなく、ネットワーク、セキュリ ティ、法律、図形も身に付ける。	3 前期	60	4	△	○		○		○		
66	○			日本語能力試 験 V	日本語能力試験合格を目的とする。 語彙・文法・聴読解・会話作文の各授業で 学んだ内容を、JLPT試験の問題答練として 演習し、確実に合格できるようにしてい く。 日本語能力試験JLPTの試験を同様の形式で 行うことにより、自身の課題発見につな げる。	3 前期	45	3	△	○		○		○		
67	○			ビジネス実務 VI	社外のマナーで具体的な場面での礼儀作 法、言葉遣い、マナーを学びながら日本文 化の理解をする。	3 後期	45	3	○	△		○		○		
68	○			実践ビジネス コミュニケー ション II	あらゆるビジネスシーンで必要とされる構 文または談話レベルの発話—敬語や待遇表 現—について、実際の場面を設定し、学生 自ら主体的に学べるようグループワークで 実践し、日本のビジネス社会で使えるよう する。	3 後期	30	2	△	○		○		○		
69	○			システム制御 演習 II	企業においては、製造部門ではシーケンス 制御装置が多用されており、設計・開発部 門では、CADやCAEなど支援ツールを活用 して製品開発を行う場面が多くなってきて いる。本講義では、機械制御の実際と実機 を利用して工場の制御システム及びPLC言 語の基礎を学習する。	3 後期	15	1	△	○		○		○		
70	○			CAD演習 V (2D)	AutoCADの基本操作およびCAD図面作成の基 礎力を「AutoCAD 練習帳」を活用して体系 的に学ぶ。最終的には、複数の機械部品図 あるいは簡易建築図など、一から作図で きるレベルを目指す。テキストに掲載され ている100問の演習問題のうち、授業の進 行や習熟度に合わせた代表的な課題を扱 い、必要に応じて追加の図面演習も行う。	3 後期	30	2	△	○		○			○	

(工業専門課程 国際 I T ビジネス学科 (国際 I T システム学科))																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
71	○			接遇演習	お茶の出し方や名刺交換等のビジネスマナー、冠婚葬祭の基礎知識、食事のマナーなど、社会人として必要なビジネスマナー・大人として必要なマナーすべてを習得する。	3後期	45	3	△	○		○		○			
72	○			コンピュータシステムⅢ	科目A分野の専門用語の確認、科目Bの思考問題の強化、過去問題を中心に総仕上げを行い、基本情報技術者試験の取得を目的とする。	3後期	90	4	△	○		○		○			
73	○			IT企業リテラシーⅡ	日本の関連企業で就労する上で、新入社員から中堅社員としてスムーズなキャリアパスができるように、各自が就職する専門的な企業形態や仕組みを知る。日本の社会で通用する（正しい敬語を使用し）ビジネス文書が書けるようになる。SPIの問題（言語分野）を理解し、理解できるようになる。	3後期	30	2	△	○		○		○			
74	○			卒業研究	システム開発、アプリケーション開発等のチームに分かれ、ビジネス系と協力してITを使用してどんな解決ができるか企画し、開発、テスト、プレゼンテーションを行い、自分の立ち位置を考えてメンバーと協力しながら納期限内に完成させる。	3後期	100	4	△	○		○	○	○			
合計						74	科目	2703 単位（単位時間）									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： ・卒業基準検定もしくは、認定試験の取得 ・授業への出席80%以上 ・履修するすべての科目において、S・A・B・Cいずれかの成績評価を得ること。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：学科・専攻で定められたカリキュラムについて履修すること。		1 学期の授業期間	20 週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。